

こたごだらちぶとむかし

新型コロナウイルス感染症が流行し、感染症予防に注意した一年でした。医療が発達していなかった時代、病気については俗信を信じ、身近な植物を薬として使っていました。小平に伝えられていた民間療法や、俗信を紹介します。



ものもらいのおまじない

昔の小平は畑が多くて広々とした場所だったんだけど、土ぼこりがひどかった。春先には、赤っ風(あかつかぜ)っていう赤土が巻き上げられた強い風が吹いて、目を開けるのも大変だったね。それで目をこするせいか、よくものもらい(麦粒腫)ができたもんだよ。今ならすぐ眼科に行くけど、昔は目医者さんが少なくてね。おまじないなんかで、治そうとしたんだよ。

ものもらいができる、障子の破れ目から、手を出して、おにぎりをもらうの。それを食べれば、ものもらいが治るんだって。おにぎりに限らず、何か物をもろうだけでもいいって言う人もいたね。

井戸に行って、目籠(めかご)っていう目のあらい竹のざるを、井戸に半分だけかざし、「このものもらいを治してくれたら、全部見せます」と2・3回唱えるのもあったよ。

一円玉のものもらいを軽くこすって、道に捨てるっていうのもあったわね。ひどい話なんだけど、一円玉を拾った人に、ものもらいも一緒に拾ってもらおうってことね。

どれもこれも効くわけではないんだけど、いろんなおまじないがあったね。



薬に使った植物

捻挫したときは、彼岸花の根をすりおろし、小麦粉と練って、痛いところに貼ると、腫れがひくんだって。

ちよっとしたけがは、どくだみやよもぎの葉をもんで傷口につけたよ。

おできができる、どくだみの葉を火であぶって、おできの上に貼るんだよ。すると、うみが出て、早く治るの。特に、とげが刺さったままうんだ時には、とげと一緒にうみが出てくるんだって。

どくだみの葉を干して、煎じて飲めば、胃にいいとか、お通じにいいとも言ったね。お茶代わりに飲んでる人もいたよ。

どくだみは十薬(じゅうやく)とも呼ばれるぐらい、色々なものに使われていたんだよ。

あせもには、桃の葉を煎じた湯をお風呂に入れたね。

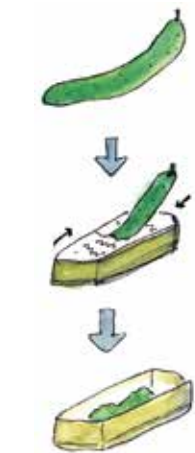
虫かぶれには、みょうがの葉をもんで出てきた汁をつけたの。

昔は薬が手に入りにくかったから、効き目はともかく、身近な植物を使ったんだね。

夏の暑いとき、食欲が無くなって、頭痛や吐き気がするのを、あつけ(暑気あたり)って呼んでいたの。あつけになると、きゅうりをすりおろして、足裏やおでこに貼り付けたんだよ。それで涼しい所で寝ていると、具合がよくなったもんだよ。今でいう熱中症だよ。

あつけ

夏は暑いとき、食欲が無くなって、頭痛や吐き気がするのを、あつけ(暑気あたり)って呼んでいたの。あつけになると、きゅうりをすりおろして、足裏やおでこに貼り付けたんだよ。それで涼しい所で寝ていると、具合がよくなったもんだよ。今でいう熱中症だよ。



みょうがの葉



桃の葉



どくだみ

きのこにあたった話

小平は畑が多かったんだけど、雑木林もあったんだよ。

この辺りでは雑木林のことを、やまと呼んで、堆肥にするための落ち葉を集めたり、たきつけにする小枝を拾いに行く大切な場所だったの。ふつう、やまと言えは、高く盛り上がった所のことなんだけど、平らなのをやまと呼んでいたんだね。

そのやまには、秋になるときのこが生えるので、よく取りに行つたもんだよ。きのこは煮込みうどんに入れて食べるんだけど、昔からの言い伝えで、必ずなすも入れるんだよ。なすと一緒に食べれば、毒消しになるって言われていたからね。

朝早く起きてやまに行くと、いろんなきのこが出てくるの。

「赤や黄色のきれいなきのこは毒きのこだ」とか、「縦にさけるきのこは食べられるきのこだ」とか、言われていたよ。

ある家の話なんだけど、木の根



元に、きのこがぎっくりとかたまりで生えていて、「センボンシメジだ」と喜んで持って帰ったんだって。

いつものようになすと一緒にうどんに入れて食べたら、あたってしまったそうよ。よく調べたら、それはセンボンシメジじゃなくて、ニガグリダケという毒きのこだったんだ。それ以来、その家では、きのこを食べなくなったんだって。

昔からの言い伝えの中には当てにならないものもあるってことだね。

風邪

風邪のひき始めて、のどが痛いときは、蜂蜜をなめたり、大根水を飲んだりしたよ。大根水っていうのは、大根をさいの目や太目の千切りにしたのを水あめや蜂蜜に漬けたものなの。少し置くと、大根から水分が出て、甘くておいしいんだよ。それを飲むとどの痛みがやわらぐ気がしたね。

鼻づまりのときは、長ねぎを枕の下に置いて寝たり、直接鼻の穴にさすといいたって。ぞくぞくして寒気がするときは、長ねぎを首に巻くんだよ。ねぎを長いまま焼いて柔らかくしてから、塩をまぶして、手ぬぐいで包むの。それを首に巻くと、ねぎが温かくて、気持ちがいいんだよ。

ごぼう汁っていうのも、よく作ってたね。ごぼうをすりおろして、おわりに入れ、かつお節とみそを加えて、熱湯を注げば出来上がる簡単なものなんだけど、熱々の汁を飲んで寝ると、風邪も治る気がしたよ。

大人はカリン酒や日本酒を温めて卵を入れた卵酒を飲むこともあった。体を温めて、十分睡眠をとって、風邪を治そうとしたんだね。



タマおばあさんのお話はいかがでしたか。では、またお会いしましょう。
協力 小平民話の会
問合せ 秘書広報課 ☎042(346)9505